機器特性曲線デジタイザ 使用マニュアル

2012年 3月24日

はじめに

本ツールは以下の機能を有する。

- a. デジタル化した特性曲線図 (jpeg ファイル) を読み込んでモニタ上に表示する
- b. 読み込んだ図面を調整(拡大・縮小、移動、回転)する
- c. マウスを使って曲線上の値を読み取り、デジタル化する
- d. 読み取った値を csv ファイルとして保存する

目 次

1 ツーノ	しの概要 こうしょう しょうしょく しゅうしゅ しゅうしゅ しゅうしゅ しゅうしゅ しゅうしゅ しゅうしゅ しゅうしゅ しゅうしゅ しゅうしゅ しゅうしゅう しゅう		
1 – 1	ツールの概要	•••••	рЗ
1-2	開発者	•••••	рЗ
1-3	免責事項とツールの使用に関する注意点	•••••	рЗ
2 インス	ストール		
2-1	導入要件	•••••	p4
2-2	インストール方法	•••••	p4
3 ツーノ	しの使い方		
3-1	ツールの起動と特性曲線図の読み込み	•••••	p5
3-2	図の調整(拡大、縮小、移動、回転)	•••••	p5
3-3	軸の設定	•••••	p5
3-4	曲線の読み取り	• • • • • •	p5
3-5	他の曲線の読み取り	• • • • • •	р7
3-6	読み取った値の保存	•••••	р7

1 ツールの概要

1-1 ツールの概要

本ツールは以下の機能を有する。

- a. デジタル化した特性曲線図 (jpeg ファイル) を読み込んでモニタ上に表示する
- b. 読み込んだ図面を調整(拡大・縮小、移動、回転)する
- c. マウスを使って曲線上の値を読み取り、デジタル化する
- d. 読み取った値を CSV ファイルとして保存する

1-2 開発者

開発チーム

開発担当者 独立行政法人建築研究所 環境研究グループ 宮田 征門

開発協力者 岡山理科大学 吉田治典 教授

精華大学 王福林 鹿島建設 小野永吉 日建設計 張兆明

1-3 免責事項とツールの使用に関する注意点

本ツールの利用によってユーザーまたは第三者損害をうけた場合にも、開発者は損害賠償責任を負いません。

2 インストール

2-1 導入要件

本ツールの実行には「.NET Framework」が必要である。「.NET Framework」は Microsoft のホームページより無償で入手可能であり、2012 年 3 月時点での最新版は、以下の URL からダウンロードできる。

Microsoft .NET Framework 4.0 http://msdn.microsoft.com/ja-jp/netframework/ff687189.aspx

2-2 インストール方法

本ツールはインストールしなくても実行することができる。ダウンロードした zip ファイルを展開し、graph digitizer.exe をダブルクリックすれば起動する。この exe ファイルを保存する場所に制限はない。

3 ツールの使い方

3-1 ツールの起動と特性曲線図の読み込み

実行ファイル(graph digitizer.exe)をダブルクリックすると図 1 のような画面が現れる。これが本ツールのインターフェイスである。インターフェイスの上部にツールバーがあり、このツールバー上に操作に必要なボタンが並んでいる。まずはツールバー上の「開く」ボタンを押し、特性曲線の画像ファイル (ipeg ファイル) を読み込む。図 1 は画像ファイルを読み込んだ後の画面である。

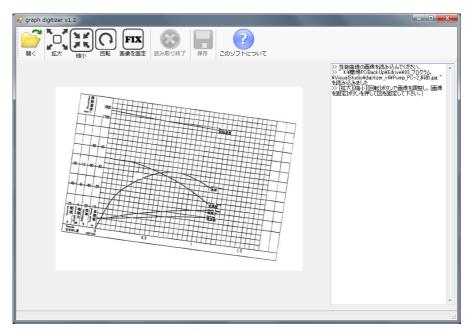


図 1 機器特性曲線デジタル化ツールのインターフェイス

3-2 図の調整(拡大・縮小、移動、回転)

ツールバーの「拡大」ボタン、「縮小」ボタン、「回転」ボタンを押すことで、図の調整ができる。また図をドラッグすることで移動が可能である。曲線を読み取りやすいように、適宜図の大きさ・位置を 調整する。図の調整が終わったら、「画像を固定」ボタンを押す。

3-3 軸の設定

「画像を固定」ボタンを押すと、自動的に軸の設定に移る。表示される指示に従い、X軸、Y軸の設定を行う。各軸の名称、軸上の2点の位置(マウスでクリックして指定)とその点の値を入力する(図2、図3)。

3-4 曲線の読み取り

軸の設定が終わると「曲線上の値をクリックしてください」と表示されるので、設定した軸に対応する曲線上を複数点クリックする(図 4)。クリックした点の値が右側のメッセージボックスに表示される。 読み取りが終われば、「読み取り終了」ボタンを押す。

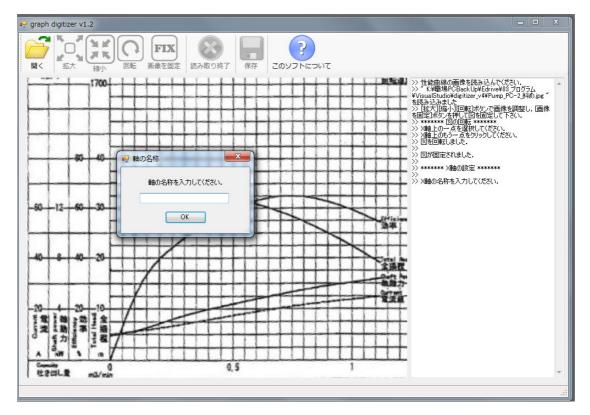


図2 X軸の名称を入力する画面

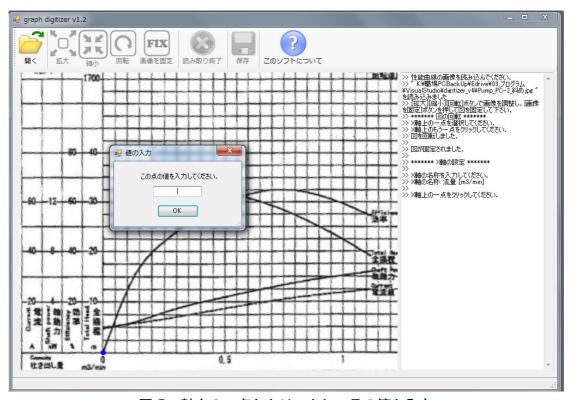


図3 軸上の一点をクリックし、その値を入力

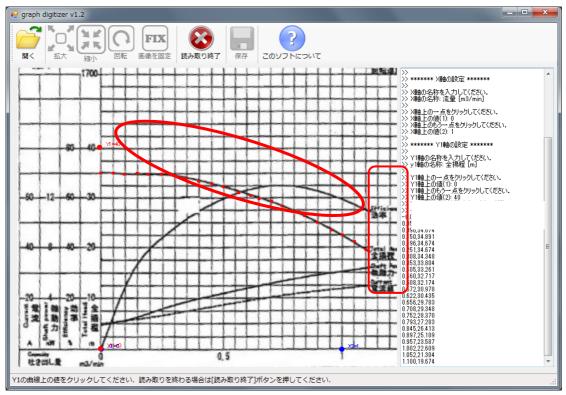


図4 曲線の読み取り

3-5 他の曲線の読み取り

例えば、ポンプの特性曲線の縦軸は「全揚程」「効率」「軸動力」「電流」と4種類の情報を表している (図 1~4を参照)。このような複数のY軸を持つ特性曲線についても効率よくデジタル化できるように、 横軸の設定は引き継ぎ、縦軸のみを新たに設定して、異なる縦軸の曲線を継続して読み取る機能を本ツールは持っている。「読み取り終了」ボタンが押された後、「さらに読み取りを行いますか」と表示されるので(図 5)、異なる縦軸の値を継続して読み取りたい場合は、「はい」を選択する。この場合は、c. d. の作業を繰り返すことになる。

また、例えば冷凍機の特性曲線の場合、効率(COP)の曲線が冷却水温度ごとに複数本描かれているが、これらを連続して読み取る場合は縦軸を再設定の必要がない(全ての曲線でY軸は共通であるため)。このような曲線を読み取る場合を想定して、横軸、縦軸ともに設定を引き継ぎ、連続して複数の曲線を読み取る機能も本ツールは持っている。本ツールでは、何本の曲線でも連続して読み取ることが可能である。

3-6 読み取った値の保存

「保存」ボタンを押すと、読み取った値が csv ファイルに保存される (図 6)。

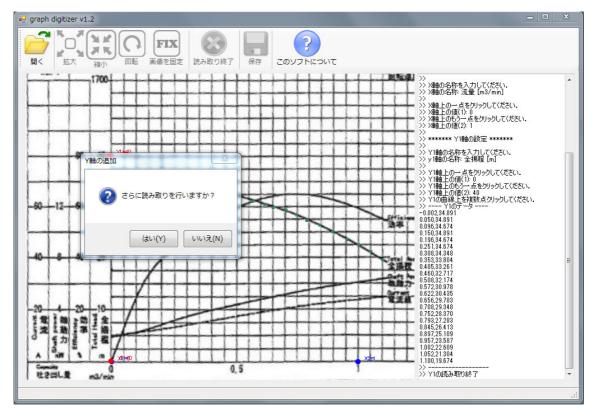


図5 他の曲線も連続して読み取りを行うかを指示

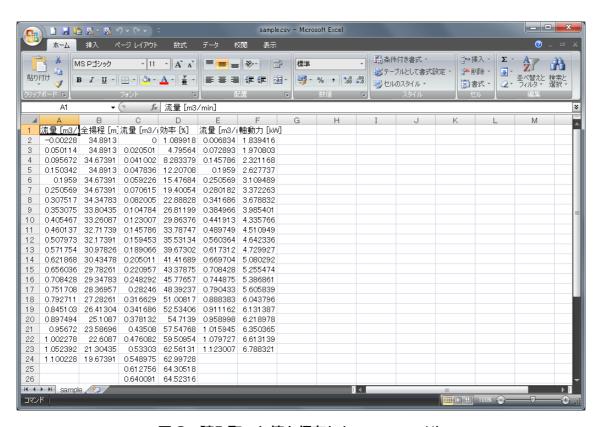


図 6 読み取った値を保存した csv ファイル